



長野市に伝わる 多様な祭礼・行事

盆 地とそれを取り囲む山地からなる長野市の暮らしが、さまざまな自然環境に応じて多様なように、この地で育まれた文化も多様です。暮らしの節目に行われる民俗行事やお祭りも同様です。そのなかで長野市を特徴づける、秋の夜空を彩る煙火^{えん か}、どんど焼きと一緒に行われる道祖神行事、市内じゅうで行われる獅子舞について紹介します。



©長野商工会議所

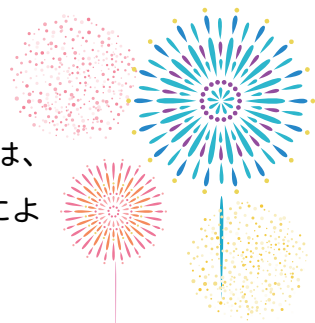
秋の夜空を彩る煙火（花火）

市内岩石町にある西宮神社のえびす講にあわせ、毎年11月に打ち上げられるえびす講煙火に代表されるように、市内では神社祭礼や地域行事に伴って花火を打ち上げるところが多くみられます。

◀ えびす講煙火

明治32年（1899）に西宮神社のえびす講に合わせて花火が打ち上げられたことが始まりとされるえびす講煙火は、秋の花火として全国にも知られる花火大会です。

新諏訪町・西長野・茂菅・安茂里の4ヶ所では、
今も花火製造業者の指導を受けた地元住民によ
る手作りの仕掛け花火が上げられています。



◀ 新諏訪町の瓜割煙火

(市選択無形民俗文化財) 9月23日開催

新諏訪町の諏訪神社秋祭りに奉納されま
す。天保7年(1836)に疫病除けのために奉納
したのが始まりとされる由緒ある煙火です。



◀ 犀川神社の杜煙火

(県指定無形民俗文化財) 9月21日開催

安茂里小市の犀川神社秋祭りに奉納され
る杜煙火は、文政7年(1824)に煙火を奉納
した記録が残されています。



◀ 加茂煙火

9月16日開催

西長野の加茂神社秋祭りに奉納される加
茂煙火も、明治39年(1906)発足と100年
以上の歴史があります。



◀ 飯縄煙火

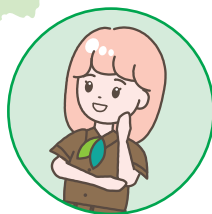
9月28日開催

茂菅の飯縄神社の秋祭りに飯縄煙火保存
会によって奉納される煙火も、明治末期から
始まったとされる歴史ある煙火です。

長野市内の
道祖神祭り



正月7日や
15日前後に各地で
行われる道祖神祭りを
紹介するよ



① 戸隠^{た がしら}田頭の 双体道祖神碑

戸隠地区では
道祖神碑をどんど
焼きの火であぶる
ところが見られま
す。田頭の道祖神
碑は左側に焦げ
跡が見られます。



② 戸隠^{おっ かよう}追通の セーノカミ^{かん じん}の勧進

追通では正月15日前後の早朝から、
子どもたちがセーノカミ（道祖神）の勧
進と称し、オンマラを持って各戸を回っ
て祝儀をもら
います。



③ 鬼無里財又の人形道祖神

どんど焼きの日には道祖神碑の前にヌルデで作った道祖神人形が供えられます。



⑤ 大岡芦ノ尻の道祖神

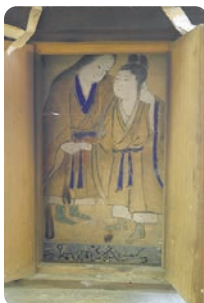
【県指定無形民俗文化財】

正月7日に集落の人々がしめ飾りを持ち寄り、道祖神の石碑を覆うように巨大な道祖神の顔を造ります。道祖神はこれから一年、集落にやってくる災厄をその厳しい顔で退治します。



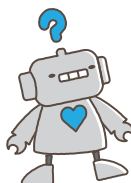
⑦ 芋井軍足の勸進用道祖神

芋井でもセーノカミの勸進が行われます。軍足では男女一對の道祖神が描かれたお宮を持って家々を回りました。



④ 小田切の人形道祖神

小田切の道祖神人形は松の枝で作られます。



⑥ 塩崎越組の人形道祖神

【県指定無形民俗文化財】

巨大な男根を両手で抱える越組のオスガタ、上半身は女性で下半身は男性の平組のオンマラサマ、ヨメとモコと呼ばれる男女一對の人形を作って燃やす東谷組のカンタサン。篠ノ井塩崎ではどんど焼きの時に大きな人形を作って一緒に燃やすところが見られます。



⑧ 若穂保科の人形道祖神

保科では縁結びを願う家で、正月15日の早朝に道祖神人形を供えました。



今に伝わる
地域の獅子舞



▲ ながの獅子舞
フェスティバル



君の住んでいる
所にもあるかな？



獅 子舞は現在も200を超える団体で伝承され、地元神社の春や秋の例祭で奉納されています。北信に多く見られる獅子舞ですが、これだけの数の獅子舞が残されているのは長野市の特徴と言えるでしょう。

毎年ゴールデンウィークにはながの獅子舞フェスティバルが開催され、中央通りに数多くの獅子舞がつどいます。

どんど焼きの横で道祖神に

▼ 奉納する戸隠追通の獅子舞



祇園祭で激突する
迫力満点の篠ノ井大獅子

▼ 【市指定無形民俗文化財】



北国街道沿いに建つ石舟地

蔵尊の前で舞う若槻田子の獅子舞。7月の石舟地蔵の縁日

▼ に披露される。



まめじま
大豆島風間神社で披露される
獅子の三番叟

▼ 【市選択無形民俗文化財】

